

相互提案協働事業 報告書

平成 24 年 5 月 25 日

（あて先）鎌倉市長



住所 [Redacted]
 郵便番号 [Redacted]
 団体名 湘南失語症者を支援する会
 代表者氏名 大原 麻美

平成 23 年度事業報告会に先立ち、協働事業の実施状況・実施結果について、下記のとおり報告します。

事業名	「失語症等成人中途言語障害者への地域コミュニケーション支援事業」
事業概要	失語症等の成人中途言語障害者は、障害がありながら生活していくにも関わらず、障害が外形的に分かりにくいいため理解や支援を得にくく、社会参加の場も殆どないまま孤立しがちである。生活の場である地域での支援態勢は重要であるが、地域住民や介護関係職員、家族もどのように対応・支援したらよいか方策がわからない場合が多い。医療・介護・行政の現場で対応しきれず、社会的交流や支援を必要としている言語障害者に対して、地域でのコミュニケーション支援を目的に、グループ活動の場作りや支援する側の市民啓発活動を展開し、広く言語障害に対する理解を推進し、言語障害者のノーマライゼーションを促す一助とする。
市担当課	障害者福祉課
事業実施期間 (継続中の事業については、継続に○をつける)	継続 開始 平成 23 年 4 月 16 日 ~ 終了 平成 24 年 3 月 31 日
協働の形態	市民活動団体提案協働事業
事業費	404,000 円

<p>事業目的の達成 (継続中の事業については、現時点で判断する)</p>	<p><達成できた点></p> <p>① グループ活動：協働による会場確保の結果、例年通り安定的な開催を実施、参加者数も安定している。また、市民健康課からの紹介者なども含め、市内外からの紹介者・見学者数が増加した。(実施回数12回、のべ参加人数130人、見学者数13人)</p> <p>また、今年度から就労している失語症者のグループ活動「復職グループ」を新たに開催した。(年4回、のべ参加人数37人、見学者数7人) 近隣にはない活動のため、県内の障害者就労支援センターなどから当事者、職員の見学・参加があった。</p> <p>② 派遣事業：言語聴覚士による隔月定例の個別相談は1件に留まったが、今年度より新たに始めた個人宅訪問は5件、施設訪問3件(内個別相談2件、職員研修1件)と、訪問事業に着実な成果が得られた。(対象者、内容は別紙の通り)</p> <p>③ 講習会：年2回の一般市民及び関連職向け「失語症基礎講座」を開催し、啓発を重ねた。(総受講者数23人)</p> <p><達成できなかった点></p> <p>個別相談事業については、予定件数枠が埋まらなかった。</p>
<p>成果・効果</p>	<p>① 今年度も担当課・関連課(高齢者いきいき課・市民健康課)との協力が、実施件数・受講者数の確保につながった。</p> <p>② 継続的な会場確保により、事業実施が安定、定着化した。</p> <p>③ 特に、グループ訓練会に関しては、地域の言語リハビリ活動として定着を見ている。医療におけるリハビリ期間短縮化や老人保健施設での言語聴覚士不足を補填する役割を担うと同時に、同じ障害を持つ仲間との貴重な交流の場としての意義が大きい。また、新たに始めた「復職グループ」も、若年層の失語症就労者を支援する取り組みとして他市にないものである。</p> <p>④ 今年度から始めた個人宅訪問にも一定のニーズがあった。昨年度までの相談事業の実態を踏まえ、来談者を待っているだけでなく積極的なアウトリーチに切り替えた成果と言える。また、個人宅訪問・施設訪問のいずれも、言語聴覚士が依頼された内容・訪問日時に柔軟に対応できる点も、ニーズに即したサービス提供の形であり、協働事業でなければ実現できない成果である。</p> <p>⑤ 効果判定の試行としてアンケートを実施、回答件数が少なかったが、研修では「現場で活用できる内容であった」「再度利用したい」など概ね好評であった。個別相談では「相談できる専門職が地域に不在」であるための来談理由が多くきかれ、ニーズが窺われた。</p>
<p>課題・問題点 (解決・改善の方法についても記入)</p>	<p>① 昨年度からの課題であった広報活動の強化は、今後も検討が必要である。言語聴覚士・関連職への口コミなど独自のルートに加え、担当課の協力とアイデア、関連課との情報交換・連携が必要である。</p> <p>② 着実に実績を積むためには、事業の効果判定を進め、今後の事業形態に反映させることが課題である。引き続きアンケートなどによって利用者の声を集約し、考察・検討していく。</p> <p>③ 担当課・関連課との相互理解を深めることも課題である。現場の実態を伝え、積極的な情報交換に努めたい。</p>
<p>今後の展望</p>	<p>協働事業終了後は、障害者福祉課での事業として実施している。これは協働事業3年間の大きな成果であるが、今後本事業を継続していくために、担当課と課題解決に努めながら着実な実績を積み重ねていきたい。</p>

添付資料

- ① 23年度事業実績(相談事業・訪問事業・講習会・グループ活動・友の会)
- ② 23年度収支決算書

23 年度「個別相談事業」実績

期間：平成 23 年 5 月～平成 24 年 3 月（福祉センター一年 6 回）

件数：1 ケース

障害別：失語症 1

23 年度「訪問事業」実績

- ① 平成 23 年 6 月 30 日(木) 施設訪問 クローバーガーデン
個別相談 失語症 1 ケース(家族、ケアマネ、施設スタッフ同席)
内容:症状説明とコミュニケーション障害への対応
- ② 平成 23 年 7 月 7 日(木) 個人宅訪問
内容:失語症への対応と家庭でできるリハビリ
- ③ 平成 23 年 7 月 29 日(金) 個人宅訪問(ケアマネ同席)
内容:症状の整理とコミュニケーション上の問題点への対応
- ④ 平成 23 年 8 月 2 日(火) 個人宅訪問
内容:ホームエクササイズの紹介
- ⑤ 平成 23 年 8 月 10 日(水) 施設訪問 アマポーラ湘南
個別相談 失語症 1 ケース(施設職員同席)
内容:失語症の症状と対応について、職員に助言
- ⑥ 平成 24 年 2 月 24 日(金) 個人宅訪問
内容:症状の説明と家庭でのアプローチ
- ⑦ 平成 24 年 3 年 10 日(土) 施設訪問 デイ西かま
職員研修 参加者 11 名
内容:認知症におけるコミュニケーション障害への対応
- ⑧ 平成 24 年 3 月 29 日(木) 個人宅訪問(ケアマネ同席)
内容:家庭でのコミュニケーションの工夫

23年度「失語症基礎講座」実績

① 平成23年6月4日(土)

受講者数：16人 当事者2、家族4、仕事関係7、ボランティア2、その他1

② 平成24年2月4日(土)

受講者数：7人 家族3、仕事関係1、知人1、その他2

23年度「大船グループ訓練会」実績

期間：平成23年4月～平成24年3月(月1回定例)

のべ参加人数：130人 見学者数(当事者)：13人

当事者以外ののべ人数：家族9、ヘルパー4、施設職員2

23年度「復職グループ」実績

年4回実施

のべ参加人数：37人 見学者数：7人

23年度「失語症友の会(和楽会)支援」実績

言語聴覚士の派遣：年5回

のべ参加人数：当事者24人 家族18人 (言語聴覚士派遣の5回ののべ人数)

鎌倉市協働事業「失語症等成人中途言語障害者への地域コミュニケーションサービス事業」
平成23年度収支決算書

科目	金額	備考
<収入>		
協働事業市助成金	404,000	
<支出>		
1. 市民啓発活動事業(講習会)		
講師謝金	30,000	15000 × 2回
印刷費	670	
2. 大船地区地域グループ活動事業		
講師謝金	143,260	全16回総額290,000の一部
会場費	1,850	復職グループ4回
消耗品費	505	
通信費	700	
印刷費	995	
3. 言語聴覚士派遣事業		
講師謝金	225,000	①相談,研修15,000 × 14回 ②グループ指導3,000 × 5回
通信費	900	
印刷費	120	
合計	404,000	

湘南失語症者を支援する会
平成24年3月31日



平成24年6月1日

市民活動団体と鎌倉市による相互提案協働事業 評価シート

(平成23年度)

事業名 : 失語症等成人中途言語障害者への地域コミュニケーション支援事業 担当課名 : 障害者福祉課

市民活動団体名 : 湘南失語症者を支援する会

評価項目		役割担当	市民活動	行政担	理由
			団体	当課	
1	事業着手前	事業の協定書作成に当たり充分な話し合いができたか	○	○	
2		事業の協定書作成に当たり対等な立場で話し合いができたか	○	○	
3		事業の協定書の内容は充分であったか	○	○	
4	事業実施過程	事業は当初の事業計画どおりに行われたか	○	○	
5		事業は対等な立場で進められたか	○	○	
6		事業は互いの特性や資源を活かしあいながら進められたか	○	○	
7		事業は課題認識、目的、プロセスを共有し協力して進められたか	△	△	(湘南失語症者を支援する会) 照会した件の返答がなく、再度照会するなど連絡が円滑かつ迅速につかない面があった。 (障害者福祉課) 今後はお互いにスムーズなコミュニケーションが取れるよう、努めていきたい。
8		課題が出た時、話し合いの場が持て解決できたか	○	○	
9	事業実施結果	設定された目標(評価項目)は達成されたか	○	○	
10		予算の執行は予定通りであったか	○	○	
11		定められた役割分担は妥当であったか	○	○	
12		定められた役割分担は守られたか	○	○	
13		市民サービスは向上したか	○	○	
14		市民と行政の協働事業は効果があったか	○	○	
15	今後の事業展望	事業を実施した結果を踏まえ、将来的な視点も含めた総括 (相互協議のまとめ)	(まとめ) 平成24年度からは、障害者福祉課での事業として実施している。これは協働事業3年間の大きな成果であるが、今後本事業を継続していくために、担当課と課題解決に努めながら着実な実績を積み重ねていきたい。		

各々の評価は 達成：○ (10ポイント) まあまあ：△ (5ポイント) 不達：× (1ポイント)

備考：理由欄は、別紙で提出しても結構です。

鎌倉市 地域のつながり推進課 地域のつながり推進担当
電話23-3000 内線2311